

# やさい週間情報(第34号)

平成29年12月1日(金)  
全農あおもり やさい花き課

品名 ながいも No.1

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産	A4L	4,000~3,800	4,000~3,800	-	1本売り (2L・L) 398~298円	北海道、本県産とも品質は良好で、太物中心の入荷となっている。売場は1本売りが主となっていることからL級以下の引合いは強いが、太物については出回り量も多く荷動きが鈍くなってきている。 今後も太物中心の入荷が想定されることから、特に太物については柔軟な価格設定を行いながら、荷動きの良化に努める。また、12月は販売強化月間となっていることから都内での消費宣伝会を実施し消費拡大をはかる。
		A3L	4,000~3,800	4,000~3,800			
		A2L	3,800~	3,800~			
		A L	3,800~3,600	3,800~3,600			
		A M	3,300	3,300			
		B4L	3,700~	3,700~			
		B3L	3,700~	3,700~			
		B2L	3,600~	3,600~			
		B L	3,500~3,300	3,500~3,300			
		B M	3,000	3,000			
		C2L	3,000~	3,000~			
C L	2,800~2,600	2,800~2,600					
名古屋	本県産 北海道産	A4L	4,000~	4,000~		1本売り 398~298円	本県産・北海道産中心の販売となっている。 29年産に切替わり、徐々に出荷量が増えてきている中、発生比率の少ないL・M級やC品については安定した販売となっているものの、比率の高い4L・3Lについては荷動きが鈍化しており、弱含みでの販売となっている。 今後についても太物が多く、L級以下やC品が少ない出荷が見込まれるため、太物の荷動きの良化に向けて、カット向けでのC品の代替提案できるように柔軟な価格対応が必要と思われる。
		A3L	4,000~	4,000~			
		A2L	3,800~	3,800~			
		A L	3,500~	3,500~			
		A M	3,200~	3,200~			
		B4L	3,700~	3,700~			
		B3L	3,700~	3,700~			
		B2L	3,500~	3,500~			
		B L	3,300~	3,300~			
		B M	2,800~	2,800~			
		C2L	3,200~3,000	3,200~3,000			
C L	2,800~2,500	2,800~2,500					

品名 なが い も No. 2

事務所	主産地	主等力級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
大阪	本県産 北海道産	A 4 L A 3 L A 2 L A L B 4 L B 3 L B 2 L B L C 2 L C L	4,000~3,800 4,000~3,800 3,800~3,700 3,800~3,500 3,800~3,600 3,800~3,600 3,600~3,500 3,600~3,400 3,000~2,800 2,600~2,500	3,800~ 3,800~ 3,800~3,700 3,800~3,500 3,600~ 3,600~ 3,600~3,500 3,600~3,400 3,000~2,800 2,600~2,500		カット 88~59円/100g	北海道産を中心に本県産の販売。 北海道産の業者物の入荷が増えており、全体的に荷動きは鈍化傾向となっている。また、入荷は4L~3L級が主体となっていることから、本県産についても特に太物の荷動きは鈍く価格は一段下げとなった。一方で、L級は入荷が少なく、1本売りの注文も増えていることから、引合いは強いままとなっている。 北海道産の業者物は、中旬以降に入荷が落ち着く見込みとなっているが、それまでは太物の荷動きは鈍い傾向が続く見込み。
九州	本県産	A 4 L A 3 L A 2 L A L B 4 L B 3 L B 2 L B L C 2 L	4,200~4,000 4,200~4,000 4,000~3,800 3,500~3,300 3,800~3,700 3,800~3,700 3,600~3,500 3,300~3,200 3,100~3,000	4,200~4,000 4,200~4,000 4,000~3,800 3,500~3,300 3,800~3,700 3,800~3,700 3,600~3,500 3,300~3,200 3,100~3,000		カット 100g 78~58円	本県産は、在庫数量を反映した入荷量となり、北海道産も一定量の入荷となっていることから、29年産をまだ販売していない青果会社もあり、また、市場・仲卸も品質懸念がなくなったことが一番大きく4L・3L級を中心に堅調な価格帯で推移している。 今後は、天候次第で在庫数量が大きく変わると思われるが、量販店の売場スペースの維持・拡張のためにも、定期的な入荷量を保つことが肝要と思われる。
東北	本県産 北海道産	A 4 L A 3 L A 2 L A L B 4 L B 3 L B 2 L B L C 2 L C L	4,000~ 4,000~ 3,800~3,700 3,500~ 3,500~ 3,500~ 3,500~3,300 3,300~ 3,000~ 2,600~2,500	4,000~ 4,000~ 3,800~3,700 3,500~ 3,500~ 3,500~ 3,500~3,300 3,300~ 3,000~ 2,600~2,500	なし	1本売り 398~350円  カット 100g 84~78円	本県産中心の販売。 先週に引続き、東北市場については、入荷量少なく市況は保合推移となっている。 来週より、入荷量が増量するものの、年末を見越した抱え込み需要が始まることから引合いは強く、末端消費は鈍い中ではあるが、市況は保合推移の見込み。

品名 にんにく No.1

事務所	主力産地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産	A 2 L A L A M	2,300~2,200 1,800~1,700 1,600~1,500	2,300~2,200 1,800~1,700 1,600~1,500	—	L 1 P 298~258 円 M 1 P 198~178 円  中国産 3 P 100 円  スペイン産 1 P 158~98 円	<p>総体的に入荷が増えている中で、入荷量の少ない 2 L 級については保合、出荷の中心となっている L M 級を中心に弱含みの販売となっている。単価が下がったことから M 級は荷動きは良化しているものの、L 級については輸入品との価格差の影響し販売苦戦となっている。</p> <p>今後、本県産の出かた次第では L M で一段下げての相場展開が予想されるため、産地状況の情報共有を図り、状況にあわせた価格設定を行いながら売場の拡張や荷動きの良化に努める。</p>
名古屋	本県産	A 2 L A L A M B 2 L B L B M	2,200~ 2,000~ 1,800~ 2,000~ 1,800~ 1,600~	2,200~ 2,000~ 1,800~ 2,000~ 1,800~ 1,600~		L 1 P 298~198 円	<p>本県産中心の販売となっている。</p> <p>管内への入荷量は安定しているものの、安価な転送品の出回りや末端では輸入品の売場が多いことなどから、価格については弱めでの販売が続いている。</p> <p>来週以降については、2 L・L 級を中心に荷動きは回復傾向にあるものの価格については概ね保合での販売が見込まれる。</p>
大阪	本県産	A 2 L A L A M	2,500~2,300 2,200~2,000 1,800~	2,500~2,300 2,200~2,000 1,800~		L 1 P 298 円	<p>本県産中心の販売。</p> <p>M 級を中心に流通在庫を抱えている状況に変わりはないが、入荷量が少ないため全体的な在庫量は少ない。むしろ、青果会社によって異なるが、不足感も出てきている。また、入荷量の少なさから価格は保合推移となっている。</p> <p>来週についても、入荷量は少ないため、価格は保合で推移する見込み。</p>
九州	本県産	A 2 L A L A M	2,200~2,000 2,000~1,800 1,700~1,500	2,200~2,000 2,000~1,800 1,700~1,500			<p>にんにくの市場流通量に大きな変化はないが、入荷割合の多い L 級の荷動きが鈍く、また、安価な転送案内も L 級中心となっていることから、2 L 級は強め、L 級は弱めの販売で推移している。</p> <p>12 月に入り、年度末までは数回の販売となり、入庫数量から極端な出荷増も見込まれないことから、現在の価格形成を維持するよう努める。</p>

品名 にんにく No.2

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東北	本県産	A 2 L A L A M	2,400~2,300 2,000~ 1,800~1,700	2,400~2,300 2,000~ 1,800~1,700	なし	L 1 P 298 円	先週から比べ、入荷量はやや減となっている中、県内市場については、発根品の入荷も多く、入荷量の割には荷動きが鈍く、市況は弱含み推移となっている。 来週については、本県産の入荷量はやや減少となるものの、荷動きの鈍さから市況は弱含み推移の見込み。

品名 ごぼう No.1

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	本県産 群馬県産	本県産 A 2 L A L A M (4K) A 2 L A L A M	1,200~1,000 1,700~1,500 2,000~1,800  400~ 500~ 700~	1,200~1,000 1,700~1,500 2,000~1,800  400~ 500~ 700~		L 1 本 178~198 円	本県産中心に北海道産、茨城産の販売となっている。 本県産の出荷はピークを過ぎ、落ち着いてきているが、安価な転送品の入荷も多く価格の底上げができていない。 太物の比率が高く 2 L 級の 1 本売りへと徐々に切り替わり始めている。 他野菜の入荷が不安定となっており、入荷の安定しているごぼうについては年末年始に向けて比較的、提案しやすい品目となっている。そのため、各社からの出荷要望は強まっている。引続き量販店での宣伝会等を積極的に実施しながら消費拡大に努め荷動きの良化に努める。
名古屋	本県産 北海道産 茨城県産	A M A 2 M A S A 2 S	2,000~1,800 2,200~2,000 1,700~1,600 1,300~1,100	2,000~1,800 2,200~2,000 1,700~1,600 1,300~1,100		2 M 2 本入 198~158 円	本県産および北海道産中心の販売となっている。 本県産の入荷は徐々に落ち着いてきた中、太物比率が徐々に高まってきており、太物については下げ基調での販売となっている。2 M 級については、入荷比率が減っているうえ、年末に向けて在庫を確保する動きが徐々に出てきていることから、強含みでの販売となっている。 来週についても、今週同様に太物については弱め、細物については強含みでの販売が見込まれる。

品名 ご ぼ う No. 2

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
大阪	北海道産 本県産 関東産	A 3 L A 2 L A L A M A 2 M A S A 2 S	1,000～800 1,100～900 1,600～1,500 2,000～1,800 2,100～2,000 1,700～1,600 1,300～1,200	1,000～800 1,100～900 1,600～1,500 2,000～1,800 2,100～2,000 1,700～1,600 1,300～1,200		2 M ハーフ 198 円 / P  S 1 P 158 円 / P	北海道産・本県産・関東産の販売。 引続き、仲卸等への安価な転送品が多く、全体的に荷動きは鈍化傾向となっている。また、本県産・北海道産の入荷は太物が主体となっているため、特に太物の荷動きは鈍く価格は下げ基調となったが、それ以外の階級では保合推移となった。 需要期に差掛っているものの、仲卸等での在庫量も多いことから荷動きの回復は見込めず、弱保合での販売が続く見込み。
九州	本県産	A 2 L A L A M	1,500～1,300 2,000～1,800 2,000～1,800	1,500～1,300 2,000～1,800 2,000～1,800			青果物全般的に高値基調の品目が多い中、土物の荷動きは良くはなく、ごぼうも荷動きが鈍い状態が続いている。 量販店では、本県産中心の品揃えで売場スペースも保たれているが、L・M級の発注量は多くはなく弱めの販売となっている。 12月に入り最需要期となることから、量販店向けのL・M級を中心に価格の底上げを図る。
東北	本県産	4 k g A 3 L A 2 L A L A M	400～ 500～400 600～500 900～700	400～ 500～400 600～500 900～700			長芋の掘り取りが本格化し、入荷量はやや減少となっている。また、11月最終週に入り年末の抱え込み需要も始まったことから、市況はL・M級中心に強含み推移。ただ、3Lや外品については、加工業務向けの荷動きが鈍く、保合推移となっている。 来週についても、入荷が不安定となることから、市況は強含み推移の予想。

品名 露 地 ね ぎ

事務所	主力地	主力等級	現在の価格	来週の予想価格	市場在庫状況	小売り状況	販売状況
東京	関東近在産 東北産 新潟県産	A 2 L A L	1,800～ 2,200～2,000	1,800～ 2,200～		2 L 1 本 78 円～  L 3 本 168 円～	関東近在産地中心に、東北、新潟産の販売。 東北各県産は終盤となっているが、関東近在産の入荷もそれほど多くなく下位等階級の入荷も多いことからA品については価格は強保合での販売となった。 来週以降、更に関東近在産の入荷が増える予想から、徐々に価格を下げながらの販売となる見込み。